

Pick Up News

今年5月に10連休があったこともあり、8月7日まで定期試験で夏休み入りが例年より遅れました。蒸し暑く、夏らしい夏となっています。4月から4か月、あっという間に過ぎ去りました。特に1年生にとっては、大学生生活も、建築学の学びも、そして試験なども初めての経験で、不安とともに慌ただしく過ごした時間だったのではないのでしょうか。しっかり英気を養い、後期に備えて下さい。8月2日には「東北工業大学奨学生表彰式」が行われました。建築学科からは、前年度1年間の成績上位者もしくは課外活動優秀成績者37名(2~4年学部生35名、M2大学院2名)が表彰されました。よい成績を取ったことが評価されてのことですが、私は、よい成績を取るために、努力を積み重ねてきたことが素晴らしいと思っています。コツコツと積み重ねた努力は、いつか必ず花を開きます！また9月にお会いしましょう！

- Q. 大学院はどんなところ？ A. 自分のテーマを持って研究や設計をさらに深め、進めるところです。本学建築学科では約1割の進学率ですが、多くの大学で30~80%の進学率となっています。建築では大学院進学は一般的なことです。
- Q. 成績がいい人だけ行けるの？ A. 違います。学びたいことを持っている人が進むところです。GPA2.2以上であれば推薦入試(面接)で受験できます。
- Q. 大学院にいくといいことある？ A. 確実に建築の知識と技術が向上します。結果として、学部ではいけないような企業や職種にチャレンジすることができます。特に組織設計事務所などでは院進学はほぼ必須条件となります。一級/二級建築士も受験できます(在学中に二級建築士合格実績あり)。
- Q. 大学院も授業があるの？ A. あります。しかし、学部のときの講義とは全く異なり、少人数でのより実践的で、一方的に聴くだけではない双方向の講義が主となります。また、自分の専門に近い分野の授業が主となります。最後は修士設計が修士論文を提出・発表して修了します。
- Q. 大学院に行きたいけど、経済的に厳しいのですが... A. 大学院生にはTA経費が月2.2万(年額26.4万円)支給されます。入学金等も不要なので、実質的には国公立大と変わりありません。(本学院初年度約72万(入学金、設備負担金不要、TA支給分差引後) 東北大院初年度81万(入学金込))

今号では4名の声を掲載します。大学院生の生の声を通して大学院の魅力を感じて下さい。

- 1. 学部3年生で始めた論文調査でやり残したこと・深められなかったことを大学院で得た知識を生かして、さらに研究を深めたかったからです。
- 2. 大学院を意識し始めたのは、学部3年生のころからで、論文研究を進めていく中で学部3年後期には大学院進学を決定しました。
- 3. 学部生の頃は人数が多いので居眠りしても大丈夫だろうとか、授業休んでも大丈夫だろうとか思っていたこともありましたが、しかし大学院では、学生約10人で授業をするので、先生とダイレクトな意見交換や友人との密な授業を受け、お互いの意見や主張を言い合える場が非常に多いと感じています。
- 4. 大学院は自分の「やりたいことの中でさらにやりたいことを見つけられる」。大学院はお金がかかるが、「かけた分のお金は経験・知識になって返ってくる」。卒業して就職して「大学院で得た経験・知識は大きなお金になって返ってくる」。

(竹内研M1: 小野寺伸)

- 1. 大学院を志した理由
- 2. 大学院進学を決めた時期
- 3. 大学院で学んでの感想
- 4. 学部生へのメッセージ

- 1. 設備設計の仕事に就きたいと考えており、大学院に進学し専門性を高く身につけ、自分の可能性を広げたいと思ったから。
- 2. 学部3年の12月
- 3. 先生方との距離が近く、質問がしやすい。フィールドワークなどがあり、体験して学ぶ事も多いためより理解が深まった。また、発表の機会がたくさんあり、プレゼン能力を身につける事ができたと思いました。
- 4. 特に設計業務は専門性が求められるため、将来就きたいと考えている人は、進学して損はないと思います。進路に迷っている人は選択肢の一つとして、考えてみるというかもしれません。(渡辺研M1: 佐々木穂)

- 1. 社会人として動くには経験や知識が足りないのではないかと不安に感じたため。
- 2. 学部3年の前期
- 3. 自らがプレゼン・講義する機会が多いので、授業外の時間を割いて勉強や準備をすることが多くなったと感じています。
- 4. 院での生活は思っていた以上に忙しいですが、その分様々な経験ができ、自分から行動する力を養うこともできます。今の自分も知識や能力に不安がある人は、院への進学を視野に入れてみていいのではないかと思います。(薛研M1: 小野寺紗希)

- 1. 学部の時の研究テーマについて、さらに深く研究してみたいと思いました。また、4年間関わってきた地域の活動をさらに続けて行きたいと思い進学を決めました。
- 2. 四年生の前期
- 3. 興味関心があることを自分で選択して、学びに繋がられています。
- 4. 建築について何かモヤモヤとしている方、もう少し学んでみたいと思っている方はぜひ、大学院への進学を考えてみて下さい。(不破研M1: 吉田鷹介)

Pick Up Lab.

中村研究室は歴史的建造物の調査や保存修復をとおして、歴史ある建物を未来へ伝える研究に取り組んでいます。デザインや技術の記録・分析という建築史研究がおもな分野ですが、自治体やまちづくり団体、修復建築家と連携した実践プロジェクトも多いことが特徴です。塩竈の博物館や登米町の町家、涌谷の武家屋敷など、研究室で保存計画や修復を実践した文化財も増えてきました。青森県弘前市では伝統的建造物群保存地区のガイドマップとポストカードを研究室で制作し、この8月から観光施設で配布されています。現地にお越しの際などにぜひご覧ください。



和風建築の見学



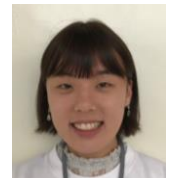
塩竈の天井画修復



4年 渡部 成那くん
仙台工業高校 出身

Pick Up Student

私はコンペティション、サークル活動、カラーズ、自主企画、設計事務所でのアルバイトなど、充実した大学生活を送ってきました。福屋研究室に入ってから、プロジェクトで大東建託コンペの指名大学部門にも参加させていただき、公開審査の際は目で審査員の先生方にコメント頂くなど、様々な経験のどれもが素晴らしい経験であり、そのおかげで今の自分が居ると思っています。サークルやカラーズなどは引退しましたが、コンペティションなどはこれからも参加し、残りの大学生活をより充実したものにしていきたいと思っています。これを読んでいただいている皆様もコンペや事務所でのアルバイトなどをやってみるといい経験になると思うのでオススメです。



1年 飯野花凜さん
鹿沼東高校(栃木) 出身

Pick Up Student

入学してからあっという間に時間が過ぎ前期が終わってしまいました。私は普通科の高校からこの道に進んだため建築の知識がほとんどありませんでした。なので知識を蓄えるためにcolorsや課外活動に参加することにしました。勉強とアルバイトで両立するのが大変でしたが、様々な活動をする中で知り得なかった知識を得ることができ参加して良かったなと思います。また、先輩や他大学の友達と出会うことができ出会いの幅も広がりました。課外活動の経験はこれからの大学生活や社会人になった時に生かせると思うのでこれからも積極的に参加していきたいと思っています。後期に入りますます授業が難しくなっていくと思いますが、1日1日を大事にして頑張っていきたいです。